

平成26年度第1回奈良市スポーツ推進審議会会議録	
開催日時	平成26年7月25日(金) 午後2時から 傍聴受付 午後1時30分から1時45分
開催場所	奈良市役所 中央棟6階 第2研修室
議 題	1 会長、副会長の選出について 2 奈良市スポーツ推進計画について【資料1】 3 その他
出席者	委員 高橋会長、坪井副会長、笠次委員、北畑委員、小林委員、辻井委員、中尾委員、藤原委員、松本委員 【計9人出席】 (池住委員、中野委員、成瀬委員、野阪委員、は、欠席)
	事務局 仲川市長(委嘱式のみ)、今西市民活動部長、松田課長、西川補佐、北森係長、土田係長、谷
開催形態	公開(傍聴人 2人)
決定事項	会長を高橋委員、副会長を坪井委員とした。
担当課	市民活動部 スポーツ振興課
議事の内容	
1 会長、副会長の選出について 委員の互選により、会長に高橋委員が選出された。また、副会長に坪井委員が選出された。	
2 奈良市スポーツ推進計画について【資料1】	
3 その他	
事務局 (土田係長)	奈良市スポーツ推進審議会会議運営要領第2条に基づきまして、この会議は公開とします。 会議に先立ち、奈良市スポーツ推進審議会の委嘱式をさせていただきます。 仲川市長より委嘱状の交付(代表:笠次委員)。
仲川市長	挨拶

事務局 (土田係長)	議事進行。 委員の紹介。
	(公務のため、市長が退席。)
	出席状況の報告。 委員 13 名の内、9 名の委員が出席。
	【奈良市スポーツ推進審議会に関する条例第 7 条第 1 項】の規定によります、過半数を超えておりますので、会議が成立したことをご報告いたします。
	それでは、議題 1 の会長、副会長の選出についてですが、『奈良市スポーツ推進審議会に関する条例第 5 条に基づきまして、会長及び副会長それぞれ 1 名を置き、委員の互選によってこれを定める。』となっております。どのようにいたしましょうか。
中尾委員	前会長の高橋委員に引き続いて会長をして頂きたいと思います。どうでしょうか。
事務局 (土田係長)	ありがとうございます。 ただいま、中尾委員の方から高橋委員に会長を務めて頂きたいと言うご発言がありましたが、皆様、ご異議はございませんでしょうか (異議なしの声)
事務局 (土田係長)	「異議なし。」ということで、高橋委員、よろしく願いいたします。会長席の方にお移り下さい。
	では、高橋委員より、会長の挨拶を、一言お願いいたします。
高橋会長 事務局 (土田係長)	挨拶 ありがとうございます。 それでは、ここからは、【奈良市スポーツ推進審議会に関する条例第 5 条第 3 項】の規定によりまして、高橋会長、進行をよろしく願います。どうぞ、よろしく願いいたします。
高橋会長	では、副会長はどのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。
辻井委員	高橋会長に一任ということでいかがでしょうか。 (異議なしの声)
高橋会長	では、私の方から指名させていただきます。坪井委員にお願いしたいと思います。 (異議なしの声)
高橋会長	では、坪井副会長、一言お願いいたします。
坪井副会長	挨拶
高橋会長	本日の議事を記録に留め置くため、議事録署名委員を選出したいと存じますが、僭越ながら、私から指名させていただいてご異議ございませんか。

高橋委員	<p>(異議なしの声)</p> <p>それでは、ご異議がないようでございますので、私からご指名させていただきます。</p>
事務局 (松田課長)	<p>北畑委員と中尾委員のお二人にお願いいたしたいと存じます。両委員よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、議題2『奈良市スポーツ推進計画について』事務局の方から説明をお願いします。</p> <p>まず、【資料1】でございます。</p> <p>これにつきましては、【第2回なら・スポーツでまちづくりラウンドテーブル会議】を7月15日に開催させていただきました。</p> <p>まず始めに一点目の【施設の充実】についてです。</p> <p>これにつきましては、現在奈良市の体育施設についてはいろいろな課題を頂いております。特にどの施設も老朽化が著しいということで今後の改修計画なり、いろいろな点で運営方法を検討する必要があるということでラウンドテーブルの中でも様々な意見を頂きました。</p> <p>また、現在では、今、市長が申しましたように、プロスポーツの支援と言うことで「スポーツ産業支援グループ」というグループが本課の方にあり、【TOP SPORTS CITY 奈良】として、バンビシャス・奈良クラブ・シエルヴォ奈良の3団体を認定して支援しているところです。</p> <p>今までは、スポーツとは『するスポーツ』で自ら実践する形が多かったのですが、これからは『見るスポーツ』という市民の皆様方が、スポーツを見て楽しむ、スポーツに触れて頂く、と言う形でも推進していかなければなりません。そのための施設づくり、皆様が気持ちよく観戦できる環境、快適に利用できる施設をめざしていきたいと考えております。</p> <p>この点について御意見いただければ有難いと思ひます。</p>
高橋会長	<p>【施設の充実】ということですが、この点に関しまして委員の皆様から御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。</p>
笠次委員	<p>『鴻ノ池陸上競技場の芝』を優先すべき施設改修として挙げていますが、具体的に芝をどういった形で貼り換えるというところまで計画が進んでいるのでしょうか。</p>
事務局 (松田課長)	<p>芝の改修につきましては、本年度はJ3の基準を満たせるように100mのピッチサイズを107mに拡張し、その部分の芝生の貼り換えを計画しています。</p> <p>しかし、3種類の芝が混在しているという情報が非常に遅かったので、既設のインフィールドの芝の部分については本年8月後半から行われる改修工事の中には、インフィールドの芝生の貼り換えは含まれておりません。</p> <p>夏芝だけで年間常緑には出来ないもので、来年度の芝の管理委託は、オーバーシードを含めて年間常緑ということで考えています。芝のメンテナンスも含めて委託をしていきたいと考えています。</p>

笠次委員	<p>天然芝では、どうしても維持費がかかります。逆に、気になるのは、あちこちで人工芝が増えています。スポーツ医学的な立場からいうと、人工芝はできれば避けて欲しいです。怪我は間違いなく増えます。</p>
事務局 (松田課長)	<p>天然芝の維持が、一番良いと思っているので、その辺はご努力をお願いします。</p>
事務局 (松田課長)	<p>天然芝でないと、陸上競技場が一種公認を受けられないこともあり、鴻ノ池陸上競技場の天然芝を維持していくというのはもちろんのことです。</p>
事務局 (松田課長)	<p>天然芝を維持管理には、非常に高額な費用が必要なので、施設管理も含め、芝のメンテナンス費用をどうするのが本市の抱えている課題です。</p>
事務局 (松田課長)	<p>できるだけコストの削減につながり、更に良い状態でゲームが出来るような芝管理が出来る、そういったアイデア・方法論や他施設の情報などお教えいただければ有難く思います。</p>
高橋会長	<p>施設の改修は、『スポーツ推進計画』に基いた『スポーツでまちづくり』をするビジョンの元で行われていると思います。</p>
高橋会長	<p>先日、鴻ノ池陸上競技場をホームグラウンドとする奈良クラブが、天皇杯の第2回戦でJリーグのJ1・ベガルタ仙台に勝ったという情報があります。そうした奈良市をホームタウンとするJリーグチームを誘致できればというビジョンの元、行われていると理解しておいていただければと思います。</p>
高橋会長	<p>他、よろしいでしょうか。</p>
高橋会長	<p>では、引き続きまして、次の【まちづくりへの展開】の説明をお願いいたします。</p>
事務局 (松田課長)	<p>施設管理につきましては、現在指定管理者制度を導入しておりまして、この指定管理者制度も今年度末に再審査を行い平成27年度から新たな展開がみられるかと思っています。</p>
事務局 (松田課長)	<p>まちづくりへの展望の一つとして、鴻ノ池運動公園があります。</p>
事務局 (松田課長)	<p>奈良市にとってはメインの運動施設です。奈良市だけではなく、奈良県全体としても鴻ノ池運動公園の運動施設の意義を感じているところです。奈良市のまちづくりと鴻ノ池運動公園をどう位置付けていくのかということが今後、テーマになっていくと思います。</p>
事務局 (松田課長)	<p>鴻ノ池運動公園の中には、売店・カフェ等の物が全くありません。そこで、売店・カフェ等を誘致する。また、例えば、スポーツ施設ではあるけれども、スポーツ以外のコンサート等でもご使用いただいて、稼働率の向上やまちづくりにつながるイベント等も考えていく等の御意見をいただいております。</p>
事務局 (松田課長)	<p>さて、大阪市には大阪城公園があります。</p>
事務局 (松田課長)	<p>大阪城公園の中には、大阪城ホールも含めスポーツ施設もあります。それらを除く大坂城天守閣等の大坂城公園の施設を企業がまとめて管理する方法をとっています。</p>

笠次委員

本市でも鴻ノ池運動公園をそれに近い形の指定管理にしてまちづくりへつながる公園にできないかと考えているところです。

その辺りのことで、今後の鴻ノ池運動公園・奈良市のまちづくりに対する御意見頂けたら有難いと思います。

資料に鴻ノ池陸上競技場に休憩できるようなカフェの併設とあります。

例えば、橿原公苑にはランニングステーションができていて、7月1日からオープンのスイムピア奈良・ファミリー公園前に出来た新設の県営プールにも自転車を置くサイクリングステーションが出来ています。

同じ様なものを北・中央・南ということで、北に位置する鴻ノ池運動公園にランニングステーションを設置するのはどうかと考えています。

一般市民の方から聞いたところでは、橿原公苑のランニングステーションの稼働率はそれほど高くないとのこと。その辺りは工夫が必要です。

来週月曜日に、奈良マラソン関連イベントの講習会があり、佐藤光子先生と共に橿原公苑にまで指導に行きます。参加者は、毎回100名程です。

そういったランニングステーション設置の計画が、鴻ノ池にもあるのかということをお聞きしたいと思います。

事務局
(松田課長)

現在でも、たくさんの方々が、ウォーキングやランニングで鴻ノ池をご利用下さっています。鴻ノ池運動公園の施設そのもので考えますと、ランニングを自由にしていただけるゾーンは、現行の施設を整備していけば十分ではないかと思っています。

鴻ノ池公園の整備内容にも含まれることにはなりますが、陸上競技場のバックスタンドの後ろに『緑の丘』という丘があります。その上の遊歩道が多目的広場までつながっています。この遊歩道と陸上競技場の外周を活用するという計画を来年度に立てようと考えているところです。

夜間でも安全にランニングやウォーキングができたりするゾーンを建設するのとランニングステーションといった建物自体を建設できるかどうかというのはこれから検討していかなければならないことです。

橿原のランニングステーションの稼働率があまり高くないというのは、私どもも調査しています。

奈良市民の鴻ノ池の利用者は、車で来て車で帰る人が非常に多いです。

大阪城公園や皇居周辺のコースのように駅の近くに位置しているところには、ランニングステーションがあり、そこでランニングした後、汗をかけばシャワーを浴びて帰ることができます。その運営には民間も乗り出しているとのこと。

しかし、鴻ノ池の利用者に同様のニーズがあるのかということは、これから調査が必要であると考えているところです。車で来場し、そのまま車で帰宅する人が非常に多いのではないかとということも含めて、どういった施設が必要なのかということを検討していきたいと思っています。

笠次委員	<p>今の話を受けて、2点質問します。</p> <p>一つは、駅に近いと言う部分でいけば、むしろ鴻ノ池より、奈良公園ではないかと。</p> <p>近鉄奈良駅近くの商工会議所の施設等で着替えてそのまま奈良公園にいけるとい核になる施設—よくランニングステーションといいます—があれば、奈良公園は、皇居周辺や大阪城公園のように人を呼べるポテンシャルを持っていると思います。</p> <p>もう一つは、講習会です。</p> <p>樞原公苑で行っているナイトラン講習会のため、佐藤光子先生（大阪教育大学非常勤講師・日本ランニング学会副会長）を大阪からお呼びしています。</p> <p>佐藤先生といつも話しているのは、この講習会を奈良でも育てたいと言うことです。そのため、「奈良市民走ろう会」の方に指導のアシストをして頂いています。</p> <p>昨年、奈良マラソンで3位入賞の選手が、『将来的に奈良市鴻ノ池で同じような講習会を月1でできたら。』と言っています。</p> <p>同様な講習会をしているところもいくつかあるとは思いますが、うまく利用して「ここに行けば、ランニングのことをやっている。」という場所が、近鉄奈良駅付近にある、鴻ノ池では、毎月講習会が行われている等のシンボリックなものが必要ではないかと思ひます。</p> <p>新しいものを建てる必要はないと思ひます。既存施設を改修、もしくはスペースを利用ということ、是非ご検討頂きたいと思ひます。</p>
事務局 (松田課長)	<p>鴻ノ池を利用して、例えば、近鉄奈良駅付近のランニングのために着替えるスペース、インフラ整備は必要であるが、「やすらぎの道」の歩道を走れるように整備することで、近鉄奈良駅と鴻ノ池をつなぐ道路がスポーツ道路の形として展開する。このようなことが出来れば、新たなまちづくりにも展開できるのではないかと、検討していたところだす。</p> <p>将来像として、ランニングステーション自体は近鉄奈良駅周囲のいろいろな施設をお借りする、改造する等、検討していきたく思ひます。</p>
高橋会長	<p>有難うございます。ついでに夢を語ります。</p> <p>近鉄奈良駅を使って、鴻ノ池にアクセスするというのであれば、ついでに中央体育館辺りもネーミングライツできればよいと思ひます。</p> <p>【資料1】の【まちづくりへの展開】まで、説明頂きました。</p>
事務局 (松田課長)	<p>施設毎のネーミングライツではなくて、鴻ノ池運動公園全体をネーミングライツに出してでも良いのではないかと考えています。</p> <p>どこかの企業がネーミングライツでとって下った場合、バス停も「鴻ノ池」から名称が変わりますから、かなりメリットがあるのではないかと思ひます。</p> <p>続いて、【資料1】3の【活動機会の充実】について説明いたします。</p>

<p>坪井副会長</p>	<p>学校開放の問題がございます。現在、奈良市の小中学校全校で学校開放を行っておりますが、色々な問題を抱えております。</p> <p>例えば、新規加入が難しい、学校毎がバラバラの対応をしており取り扱いが統一されていない状況等です。</p> <p>現在は無料で実施しておりますが、学校開放の有料化も含めて、今後の学校開放はどうあるべきか、御意見を頂ければ有難いと思います。</p> <p>先日のラウンドテーブル会議で話させて頂きましたのは、子供達のニーズをしっかり受け止めていけるような形をとって行かないと裾野を広げると言う点では非常に難しいと言うことです。その中に小学校の時にスポーツ少年団等で色々な活動をして中学校に入学した時には、その競技の部活動がないために競技を継続できないという問題があります。</p> <p>子供達のニーズに合わない、ニーズを変えざるをえない状況にあるのです。子供のニーズをずっと支援してやるために学校開放をもっと工夫した中で実施しなければならないとの話になりました。</p> <p>現状をみると、個人で学校開放を使うという事例もあります。</p> <p>例を挙げると、3人で学校開放を利用し体育館を使用するなどです。</p> <p>②にも関係しますが、拠点を決めたりする中で、学校開放を使うのは組織的なものが良いであろうということで話をしていたところです。</p> <p>とりあえず、今の課題は、生涯スポーツという部分で、やりたいことをずっと継続出来るような環境を作っていくために奈良市としてどう考えるのかということです。</p>
<p>中尾委員</p>	<p>先日のラウンドテーブル会議には私も出席させて頂きました。</p> <p>学校開放の決まりというものがあるようなのですが、学校によって守られていない、まずはどういった形で学校開放するかということをご様が共通理解できるようにしないことには、学校開放をどのように利用するかという次の段階にはいけないのではないかと思います。その辺りを、もう一度整理して欲しいと言うのがその際の話であったと思います。</p> <p>学校開放を利用したいが、手続きの仕方がわからない等といったことがたくさんあって、折角ある施設を皆さんに利用していただけない状況です。既に学校開放を利用している団体は、会議のある日もわかかっていて、その時に申し込めば、ずっと施設を利用できると思っています。しかし、新しい団体が利用したいと思っても、会議のメンバーに入れなにか予約が飽和状態で利用できないとかの現状をあちこちの学校で聞きます。</p> <p>最初に決められたことにまずは戻して、次のステップに行くことが大事なのではないかと思います。</p>
<p>高橋会長 事務局 (松田課長)</p>	<p>奈良市立小中学校の学校開放について規程はあるが守られていないことについて、何か把握しておられますか。</p> <p>学校開放については、規程を設けています。各学校で学校開放運営委員会というものを設置して学校長に運営頂いております。その委員会の中で学校の実情等に応じて運営されているのが実情であります。</p>

<p>高橋会長 事務局 (松田課長)</p>	<p>学校開放に基本的なルールがあっても地域の方が常時使用しているという状況の中で既得権を主張されることもあり、学校長が非常に対応に困られる場面も私どもは見ておりますし、色々な面で規則や申請法を検討していく必要があるのですが、何十年も続いているような制度で、活用頂いている団体もたくさんあり、その辺をリセットしてもう一度ゼロからという形にするのは非常に難しいというのが現状でございます。</p> <p>有難うございます。</p> <p>そして、しっかり使用料も頂いてですね。</p> <p>その使用料を徴収する方法が難しいのです。</p> <p>学校事務員や教諭の方々をお願いするわけにもいかず、申請方法と料金の徴収についてはどこかに委託しなければならないのではないかと思います。また、それについては更に検討していかないと学校現場も混乱されるのではないかとも思います。</p>
<p>辻井委員</p>	<p>先程、規則を守っていないとのご指摘を頂きましたが学校としては基本的に学校の授業や子供たちの活動に差し障りのない範囲で地域の方々へ学校を使って頂くという形で運営しています。</p> <p>実際には、毎月の運営委員会を開くということが出来ていないと言う部分は確かにあると思いますが、年度毎に、全員が気持ちよく学校開放を利用できるようにお互い確認事項を確認する場を設けております。しかし、やはり長年続けていただいている団体には既得権もあります。</p> <p>子どもだけでなく大人もたくさん来られ、それぞれの方がこうして無料で施設を利用できるのは有難いと言って、学校施設の体育館のトイレだけでも取り合いと言った状況なのです。それを調整させて頂いているのです。</p> <p>運営している側としては、この機会に学校開放等の見直しをする時期が来ているのではないかと思います。有料化も含めてここで見直しをして、『奈良市としてはこうですよ。』という形を示して頂きたいです。いつまでも学校運営委員会に任せたまま、使用している団体はこれまでの流れを続けたままというのでは、新しい展望はありません。</p> <p>しっかり検討して、奈良市としての学校開放のあり方を示していくことが、重要かと思えます。</p>
<p>高橋会長 小林委員</p>	<p>学校開放を利用している立場の小林委員から、御意見はないですか。</p> <p>使わせて頂いている側から言えば、『何故、今有料化なのか。』と驚いているところです。</p> <p>冒頭に市長が、『頂点を高くして、底辺を広げる。』と話していたにも関わらず、このように学校開放を有料化したら、スポーツをしたい人が出来ないことにもなると思うのです。特に私が所属している平城ニュータウンスポーツ協会は高齢化しています。体育館を利用する卓球などでは、健康のために年金生活者が競技するので高齢者が多いのです。</p>

事務局
(松田課長)

有料化してしまつたら、その辺りの活動がかなり停滞していくと思いませんし、底辺が広がるとは思いません。

それよりも、先程から出ている問題点というのをまず解決するのが先です。既存団体の既得権意識が強く、これがあることによって体協が進めている総合型地域スポーツクラブを作る弊害にもなっています。

委員会を開いて調整して頂く、市はそれに対して学校開放のビジョンを早く示して頂きたい、そんな風に思います。

実は、学校開放の経費について光熱水費はもちろんのこと、色々な設備の整備につきましてはスポーツ振興課では予算を一切持っておりません。学校開放事業は、教育委員会にスポーツ振興課が所属してきた頃から引継ぎされてきた事業なのです。学校施設は教育委員会の所管であり、教育総務課で経費は管理しています。それもあり、非常に難しい問題もあるかと思えます。備品等、施設につきましては、学校開放で使用されることによって傷んだり、貼り換えたり、修繕したりの費用が更に出てくることが予測されます。これらは全て教育委員会の予算でみているというのが現状であります。

それも含め、予算がない中で事業を充実していくと言うのも非常に難しいという問題もありますので、御意見頂けたら有難いと思えます。

北畑委員

私が今のスポーツ振興課 一元は体育課といったのですが一に在籍しておりました際に学校開放制度を作らせて頂きました。この制度が出来て20年余りになると思えます。当時の体育課は教育委員会に属していましたから、必要な経費についてはあまり問題になりませんでした。学校を管理されている立場の方々も当時は理解がありました。トイレ・体育館を使用する電気代等も必要なもので、将来は、学校開放の経費については、受益者負担という意味から有料化すべきだという話も出ていました。

小林委員も言われたように、高齢者が使用している、当該校の子どもさんが使用しているということもあり、取り方は非常に難しいのですが、働いている現役世代の方が自分の得意とする競技で楽しむためには受益者が負担すると言う感覚はご理解頂けると思えます。これは有料化すべきだと思うのです。学校開放運営協議会の名において、料金を徴収し市に納めてもらうことはできないでしょうか。学校開放に必要な水道・電気代等の維持費については幾らか負担してもらう、そういう方向に持っていくべきだと思います。

非常に手数がかかるので難しい点はございますが、先程申しましたように、利用する人が必要な経費は負担すべきとの考えで有料化すべきではないかと思えます。

中尾委員	<p>スポーツをする場合に、無料でお金を出さないでというのではなくて幾らかは自分の健康のためにお金を出していくという受益者負担は、これから必要なことではないかと思えます。有料化については、金額にもよりますが賛成です。</p>
笠次委員	<p>私は、日本体育協会の子供の体力低下対策ということで行っているアクティブ・チャイルド・プログラムの次の研究プロジェクトに関わっています。その中で生駒市の中学校・8校の調査にもずっと関わっています。今までの話の内容は、学校を色々な団体が使うという形での学校開放ということでしたが、子ども達が自由に学校現場を使えるのかどうかという部分のところをお話します。</p> <p>現在、体力低下云々というところで二極化とよく言われています。特に中学生はスポーツクラブをやっている子は、しっかり運動している。ところが、所属していない子は全く運動をしていない。所属していない子が、要は気軽にスポーツをしよう、スポーツと言うよりは運動遊びをしたいという時に何かに所属しないと遊べないというのではなく、『ちょっと遊ぼう。』と思った時に使える場所というものが意外と少ないのです。話を聞くと、親御さんたちが『平日の朝を開放して欲しい。』と申し出ても、一先程までの学校開放の話は、休日の朝もしくは平日の夜のことと思えますー、学校の先生に『駄目だ。』と言われるとのことです。『怪我の際の責任は誰が取るのか。誰が管理するのか。』が理由です。</p> <p>要は、個人で自由に学校の施設を遊びたいと思ったときに、遊べるような環境作りが必要なのではないかということです。そのための施設管理の責任、怪我が起きた際どうするかなど、クリアしなければならないことはあるけれど、組織として使うだけでなく、個人でも使えるという部分でもハードルを下げていくのが必要なのではないかと、ずっと思っています。</p> <p>都市公園の数は実は増えているのです。要は使い方がわからない、場所があっても『あれしちゃ駄目。これしちゃ駄目。』という形になっていて自由に使えないという状況がよくないのです。</p> <p>その辺は、市やトップ・上流のところでルール作り 一事故が起きた時の対処も含めてですがー をして、一般にどんどん開放していく方法に持っていきたいと思えます。</p> <p>それを奈良が先陣を切って行えるというのであれば、すごく面白いと思えます。</p>
松本委員	<p>幼稚園では、体力作りと言うことで色々な遊びを通して体を動かすことをやっています。</p> <p>園児は、保護者の自転車による送迎、私ども認定こども園では仕事をしている保護者の車での送迎が多くなりました。そのため、園児が少し歩くと『しんどい。』と言うような現象が起きています。</p>

都跡認定こども園では、山あり谷ありの園庭に今年度より改修しましたので、登る・下る等の日頃あまり平面ではしない動きをすることができるようになりました。体力向上ができたのかどうかのデータを取ってみても面白いのではないかと思います。

先程から、園庭や運動場を開放したらどうかと言われていますが、都市公園で人が遊ばなくなったのは、子どもだけで外で遊ぶと言うことが危険であるので必ず親がついていかなければならないからです。子どもだけで外で遊ぶのが、現代社会では難しい状況です。

だからといって学校が安全だろうと、ルールを決めても難しい問題があるのではないかと、学校の責任者といたしましては思います。

学校には授業がありますが、幼稚園では午前中に園庭で遊ぶこともできます。0~2歳児の親子登園の日は親子でなら可ということで園庭開放日を設けています。

その場合、在園児の教育をしている遊びの中に親子の方が入ってきた際の関わり方が大変難しいと思います。興味があるのでどんどん在園児の遊びの中に入ってこられるのですが、少し危険なこともあります。在園児が外で活動している間は少し控えてもらおうかと思ったりもします。

そういう点ではなかなかハードルが高いのではないかと思います。

坪井副会長

今、皆さんは高齢者とか幼稚園とかの横の括りで考えておられます。できれば、例えば、『あの施設に行ったら卓球が出来る。この施設に行ったら〇〇の競技ができる。』などの形で考えて欲しいです。最近では、小学生で200~300人の競技人口が、中学生では0人になるのです。その橋渡しをどうしたらよいのかと考えると、そういう部分も大きく考えられます。

また、学校は、地域と共に教育しようという方向で、中学校では一小学校・幼稚園もそうですが、地域を巻き込んで子供たちをどう育てていくかということでも動いています。融合させたら面白い作り方が出来ると思うのです。奈良スタイルというか、そういうものを作り、中学生は部活動の指導者がいなくて困っている、地域では幼稚園の保護者が一緒にあれば参加できる、その保護者が指導者になってくれたら中学生と幼稚園児を一緒にみられるなどの工夫をします。いろいろ越えなければならぬ部分はあると思いますが、そういう形に発想の転換をして拠点型といったものを作って行ったら面白いのではないかと思います。

高橋会長

ある地域のスポーツ資源と言うものを如何に有効的に組み合わせながら今の形を変えていくことができる、そういったアイデアと思いますが何かこのことについて御意見はありますか。

坪井副会長

60歳を超えて退職したら、やってみようかとも思います。私の競技は体操ですが、社会体育のジュニアスポーツクラブでそんなことをやっている人はたくさんあります。今の状況では大阪などでは施設の取り合いです。

藤原委員	<p>ただ、公立の学校開放で行っている例はありますが、さほど数はないです。組織的に、奈良市として『ここはバレーボール。ここはバスケットボール。』など、気軽に競技をできる形にします。小学校から中学校、中学校から高等学校、高等学校から大学と学年が進んで行ってもそのスポーツクラブに行きます。一人が二種目やる自由があってもよいではないかと思います。以上の構想を持っています。</p>
辻井委員	<p>結局は核となる、センターがないと難しいのではないのでしょうか。そこを誰が請け負う、新しく作るのか、例えば既存の教育委員会とスポーツ振興課の方で作って頂くのか、一番上のところをどうするのかということが非常に大事です。</p> <p>先程の学校開放の件でも指導者の人材育成が密接に関わっている問題だと思います。個別にやっても絶対に解決しない問題と思うので、その辺をどうするのか、かなり思いっきりやらないと実現できないと思います。</p> <p>小学校の学校開放について、大安寺小学校の場合は子ども達が遊びに来るなどして使っていると思います。ただ、やはり子ども達の運動能力を高めるとい点では、学校の授業も大事ですが小学校の段階では遊び、先程いわれたように近所の公園で遊ぶ、そういったことが非常に大きいのではないかと思うのです。小学校の近くにもいろいろな公園や空き地があるのですが、必ず看板があって禁止事項が羅列され、何も出来ない、遊んでも面白くない状況です。無理に遊んでいたら地域の方から『子どもがこんなことをしていた。』と学校の方に通報がある状況です。</p> <p>奈良全体の組織として、子ども達が公園に遊びに行けば、地域の方が居られて見守ってくれると言うようなものがあったら、子ども達も安心して遊べるし、保護者も安心して送り出せます。</p> <p>それぞれの公園に行ったら、何人かの地域の方が見守ってくれるという形が定着していけば、子供たちは学校の運動場でも地域の公園でも遊び、それが子どもたちの体力向上につながるのではないかと思います。</p> <p>更にまた、競技スポーツがスポーツ少年団から中学につながるということにもなると思うのですが、その辺のことも大事にする環境作りをしていきたいと思います。</p>
中尾委員	<p>朝の通学の時に、万青の方々が本当に一所懸命子ども達の通学の安全を見てくださっています。学校を使用しても良いということを学校から言われれば、万青の皆さんも協力してくださるのではないかと思います。</p> <p>毎朝、あれだけ交差点や横断歩道等で立哨してくださるのを見ていたら、そういう方との連携も考えたら良いと思います。</p> <p>そのためには、まずは、学校が使用して良いと言う形にならねばなりません。放課後は全く学校に入れていただけないのが、現在の状況です。どこが声かけをしてどこが中心になって行動したら実現するのかというのがわからないのですが。</p>

辻井委員

地域の方に来て頂くというのは、幼稚園もそうだと思いますが、学校でも非常に多く取り入れています。『子どもと地域の方で昔遊びをしよう。』とか『運動場でこういう遊びをしよう。』とか、協力を呼び掛けたら来てくださいます。実際にそうした形で協力して下さる方が非常に多くおられるのも事実です。

ただ、学校と地域を連携するという流れの中で、全てを学校で抱え込んでいる部分もあると思います。そうではなく、地域の公園・空き地などで、すぐ目の前に住んでおられる地域の方が見守って下さるなどの自然な形になる方がもっと良いのではないのでしょうか。学校から呼びかけて協力頂くと言うことは既に始まっています。学校以外にも、あの公園に遊びに行ったら地域のお年寄りの方も来ていて一緒に遊べる等の活動が出来てお互いに心地よい思いができるひと時が持てるという形が定着したら大変良いのではないかと思います。

笠次委員

私の地域は高の原です。朝6時半から、高の原小学校の前の公園で高の原FCの子供たちが朝練と称してサッカーをして遊んでいるのです。7時半になると、みな散り散りになり家に帰って食事をして学校に行きます。それを保護者達が認め、何かあったら責任は持つからと許可しているのです。公園の横は通勤のため大人が通っています。辻々にも大人が立っています。多分それが自然の形なのではないのかと思います。要は気候が良くなると、冬眠から覚めたかのように自然発生で集まる子供が増え遊んでいるのです。日が短く寒くなる11～12月になると一人減り二人減りということで自然消滅するのです。冬場はしない、春先になると再び始まると言うのが、うちの近所では毎年行われています。

そこで、我々、奈良市に必要なのは、教育現場の部分からで保護者をどう刺激するのか、どうサポートするのかということだと思います。学校が全てを抱え込むと言うのは、私も反対です。なんとかそこをうまく、保護者に『こういう方法でやって何かあったときは。』というような情報提供をしていくのです。制度にしたいとは思っていませんが、こうした形にすればすごく面白いです。近所で朝から常に子どもたちがワイワイ言っている環境を作りたいと思います。

スポーツ少年団の形でお聞きしたかったのは、自由に体験が出来るなどの門戸を広げてもらうということではできないのでしょうか。そこに怪我やトレーニング方法、コンディショニング方法の面で指導者を派遣するようなシステムを市や県で作れば面白いと思います。

事務局
(松田課長)

子どもの体力について色々と御意見を頂きまして有難うございます。奈良市としても、奈良県と奈良市というものとしては、奈良市としてどのようにスポーツ振興をしていくのかということは、その辺の情報と言うのは今後、非常に大事になってくるのではないかと考えております。

高橋会長
事務局
(松田課長)

先程、施設の充実につきましても中央体育館・中央第二体育館がかなり老朽化しており、建て替えも視野に入れながら今後検討していかなければならないと考えているところです。

10年間のスポーツ推進計画は、今年が二年目で、五年目で見直すと決まっています。社会の変化・情報等によって多少は変化していく中をどう推進計画を変更していくのかも課題となっております。委員の皆様方には情報を頂いて、我々の立場で検討していく必要があるのではないかと考えているところでございます。

最後の【人材育成・活用】指導者不足というのは今の話も含めて、また検討していかなければならない課題です。

ありがとうございました。

議題3の『その他』であります。事務局の方から説明をお願いします。

『その他』のところで、ご報告をさせて頂くことが三点ございます。

まずは、【TOP SPORTS CITY 奈良】のポスターが先日完成いたしました。皆様方のお手元にステッカー、パンフレット等を配布させていただいております。

もう1点は施設の改修計画でございます。現在進めているのが、中央体育館と中央武道場の空調設備です。この工事はほぼ完成しておりまして、8月1日から稼働予定です。料金につきましては、中央体育館が、1基500円、全部で20基ありまして、全部を稼働すると1時間10,000円という料金設定をさせて頂きました。これは競技により、風の向きとか影響が出るという場合があるのでつける場所を選択できるという形にしました。中央武道場につきましては、武道場の下の部分で1時間1,000円、観覧席が1時間2,000円合計合わせまして、主道場が全体で1時間3,000円の設定とさせて頂きました。サブ道場については1時間1,000円という設定でございます。

最後に、先程も話が出ました陸上競技場についてですが、芝生・インフィールドの拡張工事でございます。これは、8月11日から12月31日を陸上競技場を休場にして工事を進めていくところでございます。ただし、奈良マラソンの開催期間中は工事を中断して奈良マラソンの開催に協力させて頂きたいと思っております。中央体育館・中央第2体育館の耐震工事は8月18日から11月30日に進めてまいります。また、この二つの体育館につきましては床の研磨、トイレの改修を予定しており、平成27年2月から3月の約二か月間で工事をさせて頂く予定をしています。

その他中央広場駐車場の拡張工事があります。中央広場に噴水があり、噴水の場所が非常に無駄なスペースになっております。駐車台数が少ないので、噴水と設置されているベンチも撤去して駐車台数を増やす工事を平成27年の年明けから開始したいと思っております。

<p>高橋会長</p> <p>事務局 (土田係長)</p>	<p>また、駐車場については来年度の有料化に向けて、取り組んでまいります。以上、鴻ノ池運動公園をどう充実させていくのかが今後の課題でございますので、改修計画も本格的にさせて頂き将来を見据えた体育施設づくり・スポーツ振興に頑張っていきたいと思っております。</p> <p>ただいまの説明に関しまして、何か御質問・御意見はありませんか。御質問・御意見がないようですので、本日の会議はこれを持ちまして閉会させて頂きたいと思っております。</p> <p>本日は大変お忙しいところ、お集まり頂きましてありがとうございます。今後、一層スポーツの振興にお取り組み頂きますようお願い申し上げます。閉会といたします。</p>
<p>資料</p>	<p>【資料1】『第2回なら・スポーツでまちづくりラウンドテーブル会議』 概要</p>